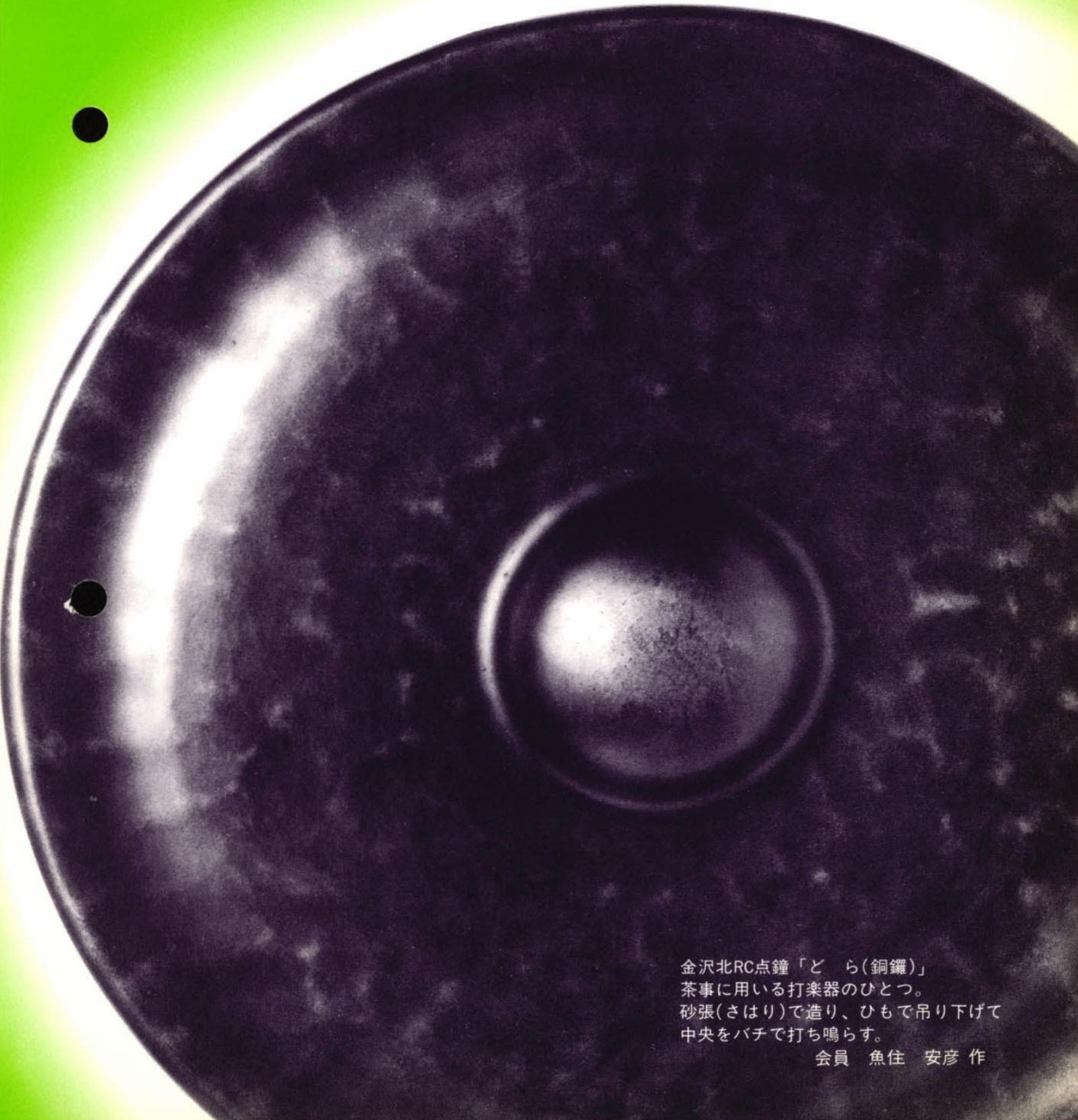


金澤北ロータリークラブ



金沢北RC点鐘「どら(銅鑼)」
茶事に用いる打楽器のひとつ。
砂張(さはり)で造り、ひもで吊り下げて
中央をバチで打ち鳴らす。

会員 魚住 安彦 作

新しい金沢の文化の拠点

金沢市民芸術村村長 細川 紀彦



大和紡績の工場が平成5年に廃止され、金沢市が買い取りました。当初は工場だけでなく倉庫も撤去する予定だったそうです。倉庫は大正の末期から昭和初期のなかなかしっかりした作りの建物です。「壊すにはもったいない、何かに使いたい」と市長が発案し、演劇、音楽、美術、リサイクル活動を中心とした生活文化という4つの分野の活動場所にしたらよいという検討委員会の提言を受け、具体化に入ったのです。

市民芸術村のコンセプトは、アンサンブル金沢を作った時と根本的に違います。オーケストラの場合はカリスマが強く、知名度が高くて技術的に優れた方を呼んでくれれば半分以上成功だと思いました。現在、この小編成のオーケストラは高い評価を得ておりますが、市民にとっては聴衆として聴くという受動的なものです。しかし、市民芸術村は、主体的に使ってもらうソフトウェアを考えなくてはなりません。有名な人を村長にするのではなく、市民を中心にした運営でなければならないと考え、各分野の代表と事務局とで村を運営するというシステムを採りました。また、創作活動をしている人たちの意見を取り入れ、全国の公営の施設として初めて1年365日、24時間利用できるようにし、利用料金も格安にしました。これらを果たして市がOKするかどうか不安でしたが、議会でも何の反対もなく通り、私自身驚いています。これも金沢の歴史的な文化に対する関心度の高さ、市長の文化に対する造詣の深さの表れだと思います。

オープン以来、多くの地方公共団体の人が見学に来ましたが、一番多いのが「何故千円でやれるのか」という質問です。しかし、千円で出来るはずがなく、「ここを利用する人が増えることは金沢市にとって無形の収入だと議会も市長も認めているから出来るんだ」と答えています。また「利用者の勝手に任せて心配はないか」とも聞かれますが、それに対する答は「信頼」しかないと思います。そういう質問をされると、まだ大きな箱モノを作るしか文化は成立しないと考えているのかと感じます。文化を楽しみ、創作活動を楽しむ人を増やすことが大切だと思います。

金沢は全国に誇っても良い伝統的な文化芸術の町ですが、将来的には必ず、今の人々が次の時代の金沢の文化芸術を支えてくれる人たちになってくれると信じています。

米山奨学生 泳諤敏君の送別会

3月19日 夜6時30分から金沢スカイホテルにて行われました。

泳君は金沢大学文学部哲学科の鹿野教授のもとで、少数民族の研究をしておられ、このたび修士課程を修了されました。なおここ1年間は米山奨学生にえらばれ、当クラブがお世話(カウンセラーは石丸幹夫会員)をして来ました。その間、当クラブの同好会の中国語に親しむ会の講師として、また例会の卓話などを通じてロータリーの理解に努めてくれました。次は博士課程取得のため、故郷の新疆自治区ウルムチ市にもどるのはまだ数年後の事になりますが、これで当クラブの米山奨学生は一応終了しました。今後、また中国語を親しむ会には出席して貰う予定ですので、今後是非この同好会にも多数の会員のみなさまが出席して下さる事をお願いします。



送別会出席者：

中谷会長、磯野国際奉仕委員長
鈴木、上田、濱田、関、石丸、
広沢

—健康アラカルト—

皮膚・泌尿器疾患(Ⅲ) —前立腺肥大症—

沢田光夫

昔は皮膚・泌尿器科といいましたが、それは性病(皆様には御縁ありませんね??)の関係でつながっていました。梅毒は皮膚科、淋病は泌尿器科で治療しております。

ところで高齢化社会の現在恐らく会員の3分の2近くは排尿困難、頻尿、残尿感を経験なさっておられると思います。これは若い時からある前立腺(男にしかありません)というものが肥大したせいです。50才を過ぎると始まって参ります。尿の病気は何となく話しづらくなりがまんしている人が多いようですが最近は何種良い内服薬も多数ありますし、またそれでダメなら簡単に内視鏡的手術の出来る時代になりました。快眠、快食、快便(快尿)に心がけて(深酒、過労、例えばマージャン、ゴルフのしすぎはこの病気に良くありません)残されたわずかな時間(失礼!!まだまだ皆様長生きされる予定ですね)を快適に過ごしましょう。

